

### 第42回全国総合文化祭(信州総文)に出場 太鼓部

8月8日(水)から3日間、伊那市で行われた信州総文祭郷土芸能部門に出場しました。当日に向け、外部ホールを借りた実践的な練習や合宿を重ね、チームとしての完成度を高めてきました。今年度は1年生の入部が多く、当初はどんな演奏になるのか不安でいっぱいでしたが、1人1人の努力によって全国でも通用する演奏にまで仕上げることができました。本番当日は、極端に緊張することもなく8分間の演奏を思いきり楽しむことができました。惜しくも上位入賞はできませんでしたが、多くの観客に私達の演奏を聞いていただけたこと、そして多くの拍手をいただけたことに感謝しています。11月には来年度の全国総文祭の出場をかけた大切な大会が控えています。この夏で経験したことを活かし、更なる磨きをかけていきたいと思えます。



### 写真部

8月8日(水)から3日間、安曇野市で行われた信州総文に出場しました。この大会は昨年11月に行われた高校芸術文化祭の上位作品が出品されます。本校からは3年生志村彩乃さん(須玉中出身)の「渾身の響き」が安曇野市美術館に展示され、講評会・講演会・撮影会・交流会に参加しました。多くの作品を見学することはもとより、同じ写真を通じて同世代が交流を深めることで、より良い作品が仕上がることを学んだ3日間となりました。また、展示会場には市川教育長を初めとする高文連事務局が視察に来られ、激励を戴き思い出に残る大会となりました。



### 全国の仲間と長野の魅力を発信：新聞委員会



新聞部門は8月9日(木)3日間、長野市若里市民文化ホールで行われました。本校からは、3年3組新藤那月さん(葦崎西中出身)、3年5組猪股璃紅君(双葉中出身)の2名が参加しました(写真左)。大会のメインは全国の仲間と一緒に交流新聞を作成することです。交流新聞は1班5~7人で構成され、班ごと、長野県の観光名所や有名企業を訪れ、取材し、その内容をB4裏表の手書き新聞にまとめます。新藤さんは善光寺および宿坊について、猪股君は松代にある

真田宝物館や真田邸について取材をし、宿舎に戻ってからも夜遅くまで記事を書いていました。大会当日、顔を合わせ、記事の内容を決め、短い時間で新聞を完成させるということはとても大変なことでした。しかし、班の仲間たちと力を合わせ、2人とも完成することができました(写真右)。新聞作成を通して、全国の仲間から多くのことを学び、また、友情の輪が芽生え、有意義な3日間となりました。



### 電子ロボと遊ぶアイデアコンテスト南関東地区予選会 優勝

第20回電子ロボと遊ぶアイデアコンテストが8月7日(火)神奈川工科大学で行われました。この大会は、WRO JAPAN高校生公認予選会として位置付けられており、優勝すると全国大会に出場できます。今回は、昨年に引き続き3度目の挑戦となりました。ロボットの大きさは250×250×250mm以内と規定されており、LEGO MINDSTROMS基本セットのみで作成します。セ

ンサもカラーセンサ・タッチセンサ・超音波センサのみが使用可能です。今回のミッションは、大まかに言うと①ラインをトレースする、②4本（赤2・黄2・青1）のカラーテープを読み取る、③読み取った色に応じて、指定されたエリアにオブジェクトを運ぶ、④指定されたエリアにゴールすることでした。第2回定期試験終了後から練習コースの作成、ロボットの組立に取りかかりました。また、事前に行われた試走会（6月10日）にも参加しました。ロボットの組立の過程では、様々な問題点が見つかり、連日ロボットの調整、プログラムの修正・追加の繰り返しでした。大会当日は、会場に着き、息つく暇もなく、本番コースでの調整を繰り返していました。調整時間は、あっという間に過ぎ、競技が開始されました。本校からは2チームが出場し、制御工学科3年生チームが優勝し、2連覇を果たすとともに、全国（決勝）大会への出場権を得ることができました。全国大会（9月9日）では、制限時間120分の中で、課題に応じたロボットを一から組立て、プログラムの作成・調整を行わなくてはなりません。大会当日までさまざまな課題を想定し、プログラム作成技術をあげていきました。結果は、課題クリア時間の短縮を図りすぎ、センサ読み取りミスにより、3位以内の入賞を果たすことができませんでした。来年は、後輩達にこの悔しさをぜひ果たしてもらいたいと思っています。



優勝 ロボット名 ファイナルスーパーウルトラローリングボンバーコンポレーション  
3-1板山 龍（小淵沢中出身）・3-3青木 勇力（増穂中出身）

## 電子機械科：旋盤

### ものづくりコンテスト（旋盤作業部門）県大会2連覇、関東大会準優勝

平成30年8月10日（金）第11回ものづくりコンテスト山梨県大会が開催され、9月2日（日）には第18回関東大会が東京都立六郷工科高等学校で開催されました。本校からは電子機械科3年の井上太陽君が出場し、県大会では優勝し関東大会への出場選手として推薦されました。山梨県大会では昨年度に引き続き本校として2連覇を果たしました。競技内容は課題である3つの部品を標準時間2時間30分（打ち切り時間3時間）で切削加工し、できばえ（仕上がり面のきれいさ）、寸法精度、安全作業の各観点で評価し、優劣を付けるものです。優勝者は全国大会の出場選手として推薦されます。関東大会では、関東甲信越各都県からの代表選手9名が旋盤の加工技術を競い合いました。県の代表として出場した井上君は、いつも通りに作業をこなし大きなミスもなく準優勝という結果を残すことができました。



## 電気科：電気工事コンテスト

8月10日（金）に峡南技術専門学校で行われた山梨県予選で2位になった2年生鎌戸公希君（田富中出身）が、県代表として25日（土）に埼玉県で行われた関東大会に出場しました。県代表に決まってからの2週間はコンテストの課題に取り組み、最初は、完成まで4時間近くかかった課題も日々の練習の成果があり、規定時間の2時間内に完成出来るようになり大会に臨みました。大会当日は37℃を超える猛暑の中、真剣に取り組み、1時間58分ようやく完成しました。大会独特の雰囲気と猛暑のため集中力が欠け、練習の成果が出せず16人中9位と不甲斐ない結果に終わってしまいましたが、今大会を教訓に来年の大会は優勝目指して頑張りたいと思います。前号若年者ものづくり競技会から始まった電気工事コンテストもこの大会で終了しました。



URL <http://www.nirasakith.kai.ed.jp>

e-mail [info@nirasakith.kai.ed.jp](mailto:info@nirasakith.kai.ed.jp)